

平成 23 年度教育方法改善のための自己点検・評価(授業評価等)実施状況調査結果

1. 学生による授業評価

(1) 実施状況

別紙「平成 23 年度授業評価実施状況一覧」のとおり

(2) 実施組織

部局名	大学側(学生側)
大学教育・学生支援機構	教育基盤センター教育推進部会
教育学部、教育学研究科	教育学部教務委員会
社会情報学部	FD 推進専門委員会
社会情報学研究科	大学院学務委員会
医学部医学科	医学科教務部会(学友会授業向上委員会)
医学部保健学科	保健学科教務係
医学系研究科	医科学専攻教務委員会
保健学研究科	保健学研究科教務委員会
工学部、工学研究科	評価委員会委員(授業改善ワーキンググループ学生委員)

(3) 実施方法

部局名	実施方法
大学教育・学生支援機構	<p>1. 年度当初に実施科目を教育基盤センター運営委員会で選定(23年度は学部別科目、情報処理) 開講授業科目担当教員を通じて質問票を学生に配付、回収。 回収した質問票は、外部委託によりデータ集計。</p> <p>2. 上記の実施状況(科目数, アンケート回収枚数)以外 「教養教育全体アンケート」として教養教育科目履修学生全員にアンケート用紙配付 配付方法: 必修科目の授業時に配付・アンケート記入後に回収 回収枚数: 989 枚 回収した質問票は、外部委託によりデータ集計。</p>
教育学部、 教育学研究科	<p>授業時に各教員がアンケート用紙を配付し、学生が回収して教務係へ提出する。 なお、このアンケートによる評価になじまない実験、実技、実習などの講義以外の授業では、別途「授業改善報告書」を提出させた。</p>
社会情報学部	<p>1. 各学期に開講されているすべての科目のアンケート用紙と回収用封筒を教員別に袋詰めしたものを総務係に用意し、各教員がそれを引き取る。 2. 教員は、最終授業の終了10分前にアンケート用紙を配布し、学生の中から回収責任者2名を指名して退室する(回収責任者には、封筒に添付されているマニュアル通りに回収作業を行うよう指示する)。 3. 回収責任者は、アンケート用紙を回収した後、封筒に入れ、事務室に提出する。</p>
社会情報学研究科	<p>1. 社会情報学研究科では在籍する学生数が少ないため、科目毎に授業評価を行うと回答者が特定されるおそれがあるので、科目毎ではなく、学生</p>

	<p>個人に授業評価アンケート用紙を配付し、各自が前後期に履修した授業科目について、自由記述式の授業評価を行った。</p> <p>2. 後期授業終了時(1月末)に、学生にアンケート用紙を配付し、学生が事務室に提出する。</p>
医学部医学科	<p>医学科の学生自治組織である学友会には授業向上委員会を設置している。本委員会が主体となり、各学年にアンケートを配布・回収し、集計されたものを教務部会に報告している。</p>
医学部保健学科	<p>保健学科は、授業担当教員からアンケート用紙の配布を受講学生代表者に依頼し、その後、学生代表者が回収して学務課の窓口へ提出している。学務課では集計して教育課程専門委員会にて報告している。</p>
医学系研究科	<p>医学基礎技術実習については、Basic 実習4科目、生命倫理公開セミナーについては2科目を対象として授業評価を実施した。</p> <p>配布は各教員が授業時に行い、学務課回収は大学院係で行った。</p>
保健学研究科	<p>大学院授業は受講者数の少ない科目が多いため、10名以上受講している科目で、3分野[看護学、生体情報検査科学、リハビリテーション学]の「特別セミナー」を指定して実施した。</p> <p>マークシートによるアンケート用紙は授業担当教員が配り、回収は学生の代表者、あるいは各自が学務課の窓口を持参した。</p>
工学部、 工学研究科	<p>前期と後期に分けて、学部・大学院のうち、少なくとも1回は全教員が授業改善のためのアンケートを受けることとした。学生側に各学科・専攻ごとにアンケート用紙の回収等を行うワーキンググループを組織してもらい、これが主体となって実施した。各教員はアンケート結果について、学生に回答するためのリアクションペーパー等を作成した。</p> <p>また、これと平行して教員相互の公開授業を実施した。</p>

(4) アンケート結果に基づく自己点検・評価(学生の授業に対する参加度、理解度、学習意欲及び満足度などの教育の成果や効果)

部局名	学生の授業に対する参加度、理解度、学習意欲及び満足度などの教育の成果や効果
大学教育・学生支援機構	<p>昨年度に引き続き実施した情報処理(前期)では、コンピューターやインターネットへの理解や情報倫理に関して、全体では90%以上の学生から高評価を得られ、医学科と工学部では昨年度よりも改善が認められた。しかし、個々の学生による理解度の差も伺われ、今後は個々の学生の理解度にも配慮した授業内容や授業進行が必要であることが明らかになった。</p> <p>また、今回初めて、学部別科目で学生アンケートを実施し、高校での履修内容への配慮や学生の理解度に応じた授業内容の必要性が明らかとなった。これらのアンケート結果を個々の教員にフィードバックすることで、今後の授業内容等の改善が期待される。学部別科目については24年度も実施し、今回の結果と比較する予定である。</p> <p>さらに、教養教育アンケートでは、総合的な評価では概ね好評であったが、学生がシラバスを活用していない状況が判明したので、シラバスの活用を促進する方策を検討する必要がある。</p>
教育学部、 教育学研究科	<p>各教員はアンケートの集計結果を基に、次回以降の講義に反映させており、概ね効果は上がっていると判断できる。</p>

社会情報学部、 社会情報学研究科	<p>授業評価の結果に関しては、評価結果を各教員に返却し、各教員が授業の成果や効果を分析し、次年度の授業に反映させている。</p> <p>また、「学部長と学生との懇談会」及び「研究科長と院生との懇談会」においては、履修方法についてやパソコン等の使用に関して、質問が寄せられ、各質問に対し、学部長、学科長、教務委員等が丁寧に応答し、学部生及び院生の理解を得ることができた。</p>
医学部医学科	<p>本集計結果については、教務部会で報告され、例年実施しているFDIにおいて公表し、今後の授業内容等の向上の参考としている。</p> <p>学生主体のアンケートであり、学生の自由な意見を拾い上げる形式となっており、より学生の本音が反映されたものである。これらをもとに、年2回の学友会との懇談会においても活発な意見交換が可能となっている。</p>
医学部保健学科	<p>学生全体へのアンケートであり、学生の自由な意見を拾い上げる形式となっていることから、学生の本音が反映されたものである。</p> <p>これらをもとに、年2回の学友会との懇談会において、意見交換を実施している。</p>
医学系研究科	<p>アンケートによるフィードバックは授業担当教員まで行い、授業の改善に役立っている。</p> <p>今後は医科学専攻教務委員会でアンケートの内容について審議し、シラバスの向上に活かすことを計画している。</p>
保健学研究科	<p>集計結果と自由記述の文章を取りまとめ、教務委員会で報告し自己評価を行った。</p> <p>結果的に他専攻分野と単純な比較ができるものとなり、また、学生の声が反映されたものとなった。</p> <p>各教務委員は、この結果を各分野へ持ち帰り、今後の授業の向上に資することができた。</p>
工学部、 工学研究科	<p>アンケート結果のフィードバックについては、各学科・専攻内での「学生との懇談会」を中心に行われており、ほとんどの教員の授業で改善が認められている。学生の予習復習の時間が短いことが複数の学科・専攻で指摘されているが、学生自身がこの点に気づく意味でもアンケートは有効と思われる。なお予習・復習が少ない一因として、勉強の仕方がわからないことも考えられ、その方法も指導する必要があると思われる。また、シラバスが十分に活用されておらず、学生にシラバスを読ませる工夫も必要である。</p>

2. 学生との懇談会

(1) 実施状況

部局名	名称	実施月日	大学側 参加者数	学生側 参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	学生と学長との懇談会	H23.7.13	15	135	学生から意向・要望を聴取
教育学部、 教育学研究科	学部長との懇談会	H24.2.28	4	4	学生生活、学習環境など
社会情報学部、 社会情報学研究科	学部長と学生との懇談会	H23.10.26	7	8	学生から意見・要望を聴取し、これに対する

					説明・確認を行う。
	研究科長と院生との懇談会	H23.12.16	6	1	大学院生から意見・要望を聴取し、これに対する説明・確認を行う。
医学部医学科	学友会との懇談会	H23.7.11	19	25	教育課程、施設等の要望事項聴取・意見交換
	学友会との懇談会	H24.2.1	14	25	〃
医学部保健学科	学友会との懇談会	H23.6.29	24	28	教育課程、施設等の要望事項聴取・意見交換
	学友会との懇談会	H23.12.7	22	25	〃
工学部、 工学研究科	学生との懇談会 (応用化学・生物化学)	H23.5.13	2	40	新2年生に対する授業改善アンケートの説明とWG学生の選出
	学生との懇談会 (情報工学)	H23.5.19	1	5	アンケート対象科目の選定
	学生との懇談会 (応用化学・生物化学)	H23.6.9	5	40	H22 年度後期授業改善アンケート報告会(現3年生実施)
	学生との懇談会 (応用化学・生物化学)	H23.7.7	1	40	2年生に対する授業改善アンケートの資料配付・科目選定
	学生との懇談会 (情報工学)	H23.10.4	1	5	アンケート集計結果の開示
	学生との懇談会 (応用化学・生物化学)	H23.10.12	1	40	報告会開催にあたっての打ち合わせと後期の授業改善アンケート科目の決定
	学生との懇談会 (応用化学・生物化学)	H23.11.2	18	45	学生WG委員によるアンケート集計結果・教員からの回答に関する発表
	学生との懇談会 (機械システム工学)	H23.11.16	7	19	授業・生活全般に対する懇談会
	学生との懇談会 (電気電子工学)	H23.11.30	1	2	授業改善アンケートの結果等について
	学生との懇談会 (生産システム工学)	H23.12.16	6	17	太田キャンパスでの生活全般について

	学生との懇談会 (応用化学・生物化学)	H24.1.12	1	40	報告会開催にあたっての打ち合わせ
	学生との懇談会 (環境プロセス工学)	H24.1.17	2	45	JABEE 受審中止に関する説明会が中心(1年生対象)
	学生との懇談会 (電気電子工学)	H24.1.17	1	4	授業改善アンケートの結果等について
	学生との懇談会 (環境プロセス工学)	H24.1.18	3	46	JABEE 受審中止に関する説明会が中心(3年生対象)
	学生との懇談会 (応用化学・生物化学)	H24.1.23	22	40	H23 年度後期授業改善アンケート報告会
	学生との懇談会 (環境プロセス工学)	H24.1.27	2	45	JABEE 受審中止に関する説明会が中心(2年生対象)
	学生との懇談会 (社会環境デザイン工学)	H24.2.6	3	3	授業改善アンケートの結果等について

(2) 懇談会での意見に基づく自己点検・評価(教育の質の向上、改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例)

部局名	教育の質の向上、改善に結び付けた取組及び具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板の電子化、履修届の Web 入力に関し早期導入が望まれるため、早期検討を開始した。 ・東日本大震災により、入学試験、卒業式及び入学式を中止又は変更する情報伝達を HP のみで行ったため、十分な情報が伝わらなかったとの意見があった。これらに対応するため、学生への情報伝達方法の改善と合わせて緊急連絡網を早急に整備していくこととした。
教育学部、教育学研究科	教育の質の向上ではないが、学生から喫煙場所についての苦情があったので、喫煙場所に建屋を設置して環境の改善を図った。
社会情報学部、社会情報学研究科	教育の質の向上を目指し、FD公開授業ではアンケートを課して、授業の参考としている。また、授業後の懇談会では、教員同士が問題点や評価すべき点を出し合って、授業の反省材料としている。さらに、学生から聴取した意見を踏まえ、履修の手引きをより分かりやすく修正した。
医学部医学科	<p>懇談会では非常に活発な意見交換が実施された。内容的には授業のカリキュラム改正を願うものが多く、教務部会等で検討し改善を図ることとした。なお、懇談会での意見を今後のカリキュラム改正に反映していくこととなった。</p> <p>施設の改修を望む声が多かった体育館床面改修、弓道場防矢ネット改修、構内の照明の増設などが実現した。</p>
医学部保健学科	懇談会では非常に活発な意見交換が実施された。内容的には授業のカリキュラム改正を願うものが多く、教育課程専門委員会等で検討し改善を図る

	<p>こととした。なお、懇談会での意見を今後のカリキュラム改正に反映していくこととなった。</p> <p>懇談会で学生から話題の出た施設の改修について、可能なものから実現に向けて対応を行っている。</p> <p>(トイレの洋式化、手洗いシャボネットの増設、体育館床面改修など)</p>
工学部、工学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの意見を各教員に周知し、授業改善に役立てている。 ・JABEE 受審に関して理解が得られた。(環境プロセス工学科・専攻) ・試験の際の電卓を学科のもので統一する件について、学生の意見を尊重して、平成23年度期末試験からはやめるようにした。(社会環境デザイン工学科・専攻)

3. FD 活動

(1) 実施状況

部局名	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	教育基盤センター	全学 FD 連続講演会「大学教育のグランドデザイン」④「実質的学びの場の構築に向けて一つなぐ FD の発想と評価」	H24.2.3	30	教育内容の充実、FD 推進を図るため、FD に積極的に取り組まれている、京都大学の犬塚雄作教授に講演いただいた。
	教育基盤センター	ベストティーチャー賞選考のための公開模擬授業	H23.5.6	58	各部局から推薦された最優秀賞候補者6名による公開模擬授業を実施した。
	教育基盤センター	教養教育ベストティーチャーによる公開模擬授業	H23.11.2 ～ H23.11.29	5	昨年に引き続き、教養教育ベストティーチャー優秀賞受賞者3名による公開模擬授業を実施した。
教育学部、教育学研究科	教育学部	特設の授業公開(前期)	H23.6.16 ほか	27	授業の参観及び授業研究会
	教育学部	特設の授業公開(後期)	H23.11.11 ほか	9	授業の参観及び授業研究会
	教員養成 FD センター	教育サロン	H23.7.14 H24.1.12	16 18	学部教員と附属学校園教員とが教員養成に関わる課題等について話し合った。

		スタディツアー	H23.9.16	5	附属学校園の教育活動を観察(参観)し、学部教員と附属学校教員との間で意見交換を行った。
社会情報学部、社会情報学研究科	社会情報学部FD推進専門委員会	公開授業	H23.12.1 H24.1.26	3 2	学部及び大学院の公開授業の実施
	社会情報学部FD推進専門委員会	企業懇談会	H24.2.1	21	企業から招聘した講師による講演会の実施
医学部医学科	医学教育センター	医学教育教授法ワークショップ	H23.12.10	126	【第1部】「教員の教育業績評価について」 【第2部】「医学教育モデル・コア・カリキュラム～平成22年度改訂について」
医学部保健学科、保健学研究科	教育課程専門委員会	ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業	H23.8.22	62	ベストティーチャー賞受賞者による模擬公開授業
	教育課程専門委員会	保健学教育ワークショップ	H24.3.6	61	大学で考えられるアカハラ・パワハラについての討論
医学系研究科	医科学専攻運営委員会	群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻・生命医科学専攻FD兼成果報告会	H24.2.15	84	博士課程教育リーディングプログラムについて
工学部、工学研究科	教育改善検討委員会(環境プロセス工学専攻)	授業評価アンケート優良者との意見交換会	H23.4.27	11	授業アンケート優良教員の授業での工夫点などを聞き、意見交換を行った。
	工学部	ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による公開模擬授業	H23.9.28	100	ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による公開模擬授業
	群馬大学	ポスドクター・インターンシップ講演会	H24.2.14	140	「企業が求める理工系人財について」企業講師による講演

(2) FD 活動に基づく自己点検・評価(授業内容、教育方法の具体的な改善事例)

部局名	授業内容、教育方法の具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	<p>FD連続講演会により、先進的な取り組み状況を聴講し、教員個人の教育方法改善の動機付けになった。</p> <p>また、ベストティーチャー賞関連の公開模擬授業は、新任教員をはじめとする若手教員や優れた授業を行う教員への動機付けになった。</p>
教育学部、教育学研究科	<p>公開授業では、対象となった授業の特長を確認し、参加教員が各自の授業に適した形でそれを採り入れた。</p> <p>教育サロン等の取り組みにより、附属学校園を主なフィールドとして学校現場の現状理解及び課題解決への寄与等を考える機会を提供することができた。</p>
社会情報学部、社会情報学研究科	<p>FD推進専門委員会から各教員に、アンケート内容をよく吟味し、各科目の第1回授業の際に、「前年度の授業評価の結果を踏まえて、本年度はどの部分をどのように改善していくことになったのか」を伝えるよう依頼している。</p>
医学部医学科	<p>学友会授業向上委員会から選出された教員による模擬授業を行うことにより、学生にとってわかりやすい授業方法を参加教員に対し、認識・啓発することができ、その模擬授業に対するアンケートを実施することで、改善点等の再認識の一助になると考える。</p> <p>また、第二部では外部講師をお招きし、医学教育モデル・コア・カリキュラムの改正の趣旨、目的、ポイント等を解説いただいた。それに基づき、群馬大学でのカリキュラム改正の現状を説明し情報を共有、認識することができた。</p>
医学部保健学科、保健学研究科	<p>ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施して、各教員の授業方法・質の向上に努めている。今回の模擬授業では、単なる模擬授業とはせず、授業実施に当たってベストティーチャーが特に留意している授業方法について、講義してもらう形をとった。</p> <p>また、教員の学生に対するアカハラ・パワハラの問題を検討した。</p>
医学系研究科	<p>博士課程教育リーディングプログラムのオンリーワン型に採択された「重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム」と、本年度は採択されなかったが、来年度複合領域型に応募を計画している「生命機能画像化を開発・展開するグローバルリーダー養成プログラム」の概要の説明があり、活発な質疑応答が行われた。また、学外の評価員からのコメントも得ることができた。</p> <p>これらの討論及びコメントをもとに、グローバルリーダーを養成する世界的な大学院教育拠点の形成のために、シラバス及び授業の更なる充実化を進める予定である。</p>
工学部、工学研究科	<p>公開授業については、各教員が報告書を作成し授業改善に活かしている。また、ベストティーチャーによる公開模擬授業も行い、各教員の授業方法の改善に役立てている。</p>

4. 学生などの意見調査(在校生、卒業(修了)生、就職先及び保護者など)

(1) 実施状況

部局名	名称	実施月日	対象者 ・人数	内容
大学教育・学生支援機構	教養教育授業等に関するアンケート	H24.3.14・15	1年生・832人	パソコンの所持状況及び教養教育授業に関する成績評価
教育学部、教育学研究科	教育に関する現況調査アンケート	H24.2.1～23	回収数,学部4年124件,3年生122件,修士1・2年47件	教員養成課程に関する教育の現況を明らかにするもの
医学部保健学科	新入生合宿研修	H23.12.7	在校生全員と教員・774人	研修内容改善に関するアンケート
	チームワーク実習後の多職種連携に関する態度評価	23年7-12月	2000年から2007年卒業生1044名	多職種連携に関し、卒業後の就業時のチーム医療教育の重要性を明確化するため、チームワーク実習直後と就業後の態度の変化等についての解明を行った。
工学部、工学研究科	教育改善のための卒業生アンケート	H23.12	H19～23の学部卒業生2,550名	群馬大学工学部の教育(授業、カリキュラム等)に対する意見・要望を卒業生から募った。

(2) 意見調査に基づく自己点検・評価(具体的な改善事例)

部局名	具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンの所持状況を聴取したことにより、今後導入する教務システムの仕様に反映させることができた。 ・成績評価については、シラバスに明示された評価基準による適切な評価であることが確認できた。
教育学部、教育学研究科	後期の授業終了後に学生・院生に対して調査を行っているため、現在、集計作業中である。集計結果は教務委員会や学生支援委員会などで活用するとともに、教員にも周知し、それぞれの授業改善の資料とする予定である。
医学部保健学科	新入生合宿区研修アンケートは、在校生及び教員に配布し、新入生合宿研修の中止、または継続も含めて、研修内容改善に関する調査を行った。在校生のうち4年生の協力は得られなかったが、1年生から3年生までの回収率は59.1%(学年・専攻別では40.0%～100%)、教員の回収率は79.2%であった。この結果、合宿研修を続けるべきとの意見が過半数を占め、来年も引き続き継続していくこととな

	<p>った。ただし、その内容についてはグループ討議のテーマなど改善すべきところも多いことが分かり、平成 24 年度新入生合宿研修の計画立案について協議することとなった。</p> <p>チームワーク実習終了後のアンケートは、これまでの解析の結果、多職種連携に関する態度は、学部学生でチームワーク実習直後の態度に比べて、有意に低いことが判明した。因子分析によりチームの効果に対する態度の低下が明らかとなり、学部教育のみならず、卒後の就業時のチーム医療教育の重要性が浮き彫りとなった。現在、論文 (Makino et al., Cross-sectional study on attitudes toward interprofessional health care teams between undergraduate students and the alumni) として英文専門雑誌に投稿準備中である。</p> <p>また、本実習科目は、平成 24 年 3 月 1 日に外部評価委員による評価を受け、カリキュラムに反映させた。</p>
工学部、 工学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育に関する指摘が多かったが、専門教育として行っている専門外国語および技術英語で「音読筆写」を重視した講義に比重を移しており、学習者の不断の努力との併用による今後の学習効果の向上を期待している。また、化学工学の講義については、化学工学会認定の化学工学技士(基礎)の試験内容を根拠としたカリキュラムの体系化が望ましいと考えている。(環境プロセス工学科) ・学生への情報提供について電子化の要望が寄せられた。現在、可能な限りホームページ及び電子メールを利用するようにしているが、事務などからの通知は書類によるものもあり、掲示板を利用してきた。今後は可能な限りPDF化してホームページに掲載したい。(情報工学科) ・報告書(冊子)を各教員に配付し、今後のカリキュラム編成や授業の改善に生かしていく。

5. その他特記事項

部局名	その他特記事項
社会情報学部、 社会情報学研究科	<p>学生が授業にどのように取り組んでいるかについても調査し、各教員がその把握につとめている。</p> <p>ベストティーチャー賞選考の根拠資料としている。</p>

6. 根拠資料

部局名	根拠資料
大学教育・学生支援機構	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全学FD連続講演会(H24.2.3)案内 2. 平成 23 年度授業評価質問票(学部別) 3. 平成 23 年度授業評価質問票(情報処理) 4. 平成 23 年度教養教育アンケート用紙 5. 平成 23 年度前期授業評価集計表(学部別) 6. 平成 23 年度前期授業評価集計表(情報処理) 7. 平成 23 年度後期授業評価集計表(学部別)

	8. 平成 23 年度後期授業評価集計表(情報処理) 9. 平成 23 年度教養教育アンケート集計表 10. 学生と学長との懇談会要旨 11. ベストティーチャー賞選考結果 12. 教養教育授業等に関するアンケート用紙 13. 教養教育授業等に関するアンケート集計結果
教育学部、 教育学研究科	1. 授業評価アンケート 2. 授業改善報告書様式 3. 教育に関するアンケート
社会情報学部、 社会情報学研究科	1. アンケート用紙 2. 集計結果
医学部医学科	1. 第1回学友会との懇談会 2. 第2回学友会との懇談会 3. 医学教育教授法ワークショップ
医学部保健学科、 保健学研究科	1. 第1回懇談会 2. 第2回懇談会 3. ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業[理学療法学概論(模擬授業)] 4. 保健学教育ワークショップ(パワハラ・アカハラ関係) 5. 新入生合宿研修に関する学生アンケート(結果) 6. 新入生合宿研修に関する教員アンケート(報告) 7. チームワーク実習後のアンケートにご協力いただいた卒業生へ 8. 総合的学士力の育成に向けたチーム医療教育プロジェクト評価委員会議事録
医学系研究科	1. 群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻・生命医科学専攻FD 兼成果報告会
工学部、 工学研究科	1. 授業改善のためのアンケート用紙 2. 授業改善のためのアンケート結果票 3. 公開授業に関するアンケート 4. ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による公開模擬授業 5. ポストドクター・インターンシップ講演会 6. 授業改善のための卒業生アンケート用紙 7. 授業改善のための卒業生アンケート報告書